

I 人口・世帯数の概要

1 概要

令和元年10月1日現在の住民基本台帳に基づく浜松市の総人口は802,856人で、前年に比べ2,254人(0.28%)減少している。世帯数は340,896世帯で、3,658世帯(1.08%)増加している。

性別でみると、男性が399,971人(構成比49.8%)で、前年に比べ864人(0.22%)減少している。女性は402,885人(同50.2%)で、前年に比べ1,390人(0.34%)減少している。性比(女性を100とした場合の男性の割合)は99.3で、平成30年と比べ0.2ポイント増加している。

1世帯当たりの平均人員は2.36人で、前年と比べ0.03人減少している。

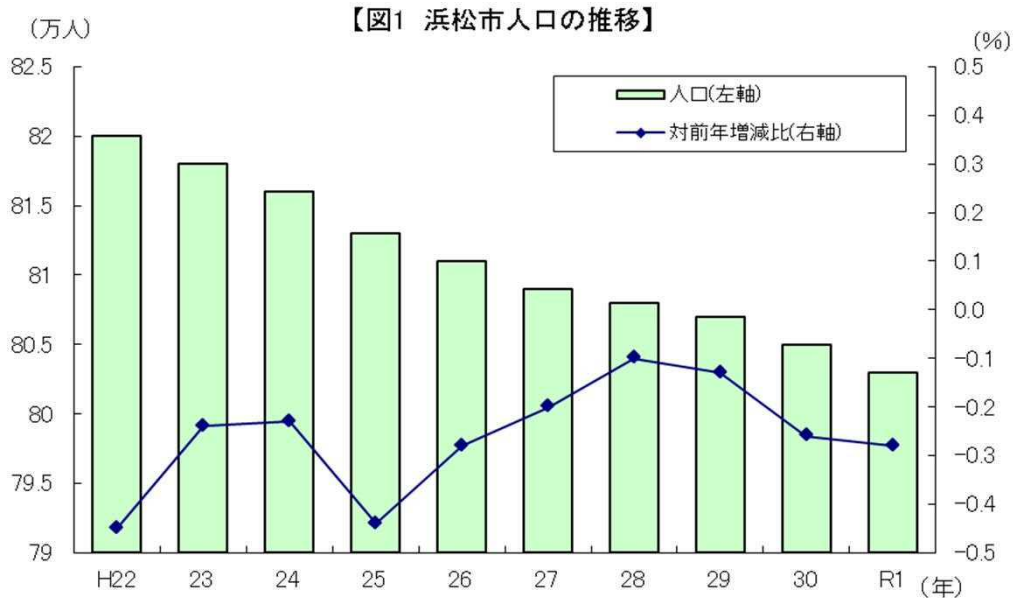


表1 浜松市人口・世帯数の推移

年	総		人			口		日		本	
	総数	前年比%	男	女	世帯数	総数	前年比%				
平成22年	820,317	△ 0.45	408,612	411,705	317,669	792,788	△ 0.09				
23	818,375	△ 0.24	407,360	411,015	318,213	792,691	△ 0.01				
24	816,490	△ 0.23	406,168	410,322	320,171	792,334	△ 0.05				
25	812,888	△ 0.44	404,343	408,545	321,882	791,400	△ 0.12				
26	810,642	△ 0.28	403,298	407,344	324,478	789,670	△ 0.22				
27	809,065	△ 0.19	402,309	406,756	327,467	788,190	△ 0.19				
28	808,249	△ 0.10	402,184	406,065	330,765	786,831	△ 0.17				
29	807,199	△ 0.13	401,711	405,488	333,930	784,658	△ 0.28				
30	805,110	△ 0.26	400,835	404,275	337,238	781,147	△ 0.45				
令和元年	802,856	△ 0.28	399,971	402,885	340,896	777,581	△ 0.46				

注)平成23年以前は、日本人住民は住民登録数、外国人住民は外国人登録数を集計。

表2 浜松市人口・世帯数等

区分	平成30年10月1日						総数	前年比%
	総数	男	女	性比	世帯数	1世帯当たり平均人員		
総人口	805,110	400,835	404,275	99.1	337,238	2.39	802,856	△ 0.28
日本人住民	781,147	389,077	392,070	99.2	326,104	2.40	777,581	△ 0.46
外国人住民	23,963	11,758	12,205	96.3	11,134	2.15	25,275	5.48

2 日本人住民数と外国人住民数

令和元年10月1日現在の日本人住民数は777,581人で、前年に比べ3,566人(0.46%)減少している。世帯数は328,710世帯で、2,606世帯(0.8%)増加している。

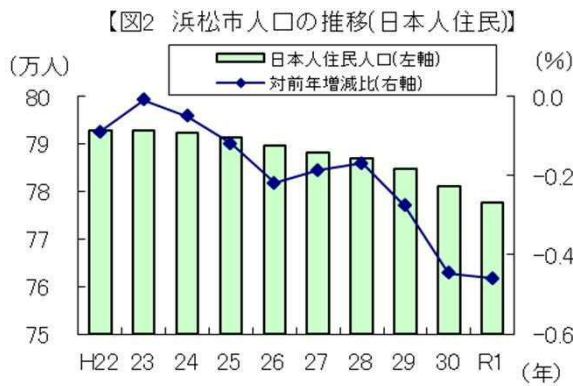
性別でみると、男性が387,419人(構成比49.8%)で、前年に比べ1,658人(0.43%)減少している。女性は390,162人(同50.2%)で、前年に比べ1,908人(0.49%)減少している。性比(女性を100とした場合の男性の割合)は99.3で、平成30年と比べ0.1ポイント増加している。

1世帯当たりの平均人員は2.37人で、前年に比べ0.03人減少している。

令和元年10月1日現在の外国人住民数は25,275人で、前年に比べ1,312人(5.48%)増加している。世帯数も12,186世帯で、前年に比べ1,052世帯(9.45%)増加している。

性別でみると、男性が12,552人(構成比49.7%)で、前年に比べ794人(6.75%)増加、女性は12,723人(同50.3%)で、前年に比べ518人(4.24%)増加している。性比(女性を100とした場合の男性の割合)は98.7で、平成30年と比べ2.4ポイント増加している。

1世帯当たりの平均人員は2.07人で、前年と比べ0.08人減少している。



人 住 民			外 国 人		人 住 民		
男	女	世帯数	総 数	前年比%	男	女	世帯数
394,755	398,033	302,750	27,529	△ 9.79	13,857	13,672	14,919
394,635	398,056	305,874	25,684	△ 6.70	12,725	12,959	12,339
394,282	398,052	309,078	24,156	△ 5.95	11,886	12,270	11,093
393,864	397,536	312,365	21,488	△ 11.04	10,479	11,009	9,517
393,052	396,618	315,192	20,972	△ 2.40	10,246	10,726	9,286
392,182	396,008	318,343	20,875	△ 0.46	10,127	10,748	9,124
391,796	395,035	321,240	21,418	2.60	10,388	11,030	9,525
390,767	393,891	323,664	22,541	5.24	10,944	11,597	10,266
389,077	392,070	326,104	23,963	6.31	11,758	12,205	11,134
387,419	390,162	328,710	25,275	5.48	12,552	12,723	12,186

令 和 元 年 10 月 1 日									
男	前年比%	女	前年比%	性比	世帯数	前年比%	1世帯当たり 平均人員	面積km ²	人口密度
399,971	△ 0.22	402,885	△ 0.34	99.3	340,896	1.08	2.36	1,558.06	515
387,419	△ 0.43	390,162	△ 0.49	99.3	328,710	0.80	2.37	-	-
12,552	6.75	12,723	4.24	98.7	12,186	9.45	2.07	-	-

3 行政区別人口

行政区別に人口・世帯数をみると、人口・世帯数ともに最も多いのは中区で、237,444人(構成比29.6%)、111,372世帯(同32.7%)である。また、人口・世帯数ともに最も少ないのは天竜区で、28,323人(同3.5%)、12,376世帯(同3.6%)である。

人口密度も同様に、最も高いのは中区の5,355人/km²、最も低いのは天竜区の30人/km²である。

性比(女性を100とした場合の男性の割合)は、南区が101.6で最も高く、続く東区も100.4で、男性の割合が高い。性比が最も低いのは、天竜区の93.9である。

【図4 行政区別人口・世帯数(構成比(%))】

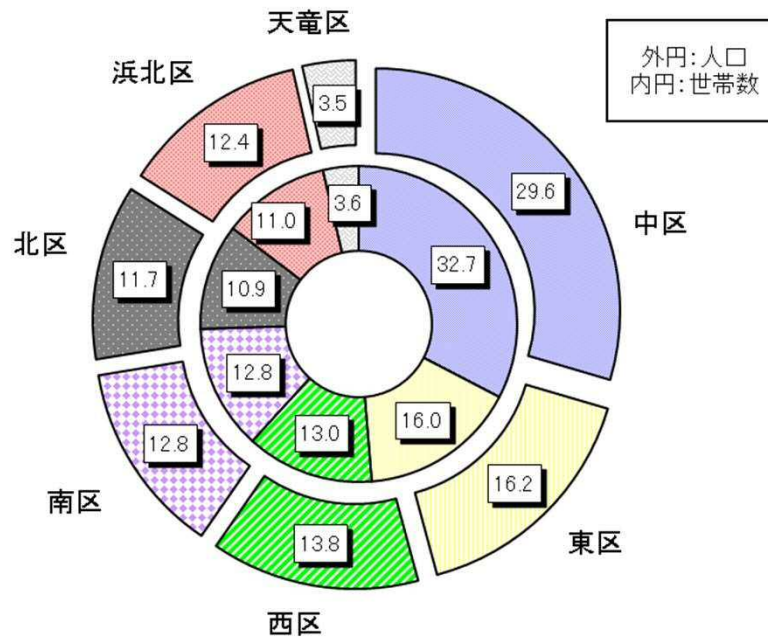


表3 区別の人口・世帯数等

区別	平成30年10月1日		令和元年10月1日										
	総数	世帯数	総数	前年比%	男	女	性比	世帯数	前年比%	1世帯当たり平均人員	人口構成比	面積km ²	人口密度
中区	237,739	110,218	237,444	△ 0.12	117,827	119,617	98.5	111,372	1.05	2.13	29.6	44.34	5,355
東区	130,579	54,030	130,446	△ 0.10	65,347	65,099	100.4	54,667	1.18	2.39	16.2	46.29	2,818
西区	111,503	44,007	110,564	△ 0.84	55,093	55,471	99.3	44,308	0.68	2.50	13.8	114.71	964
南区	103,122	43,238	102,763	△ 0.35	51,787	50,976	101.6	43,630	0.91	2.36	12.8	46.84	2,194
北区	93,778	36,600	93,616	△ 0.17	46,425	47,191	98.4	37,141	1.48	2.52	11.7	295.54	317
浜北区	99,418	36,709	99,700	0.28	49,775	49,925	99.7	37,402	1.89	2.67	12.4	66.50	1,499
天竜区	28,971	12,436	28,323	△ 2.24	13,717	14,606	93.9	12,376	△ 0.48	2.29	3.5	943.84	30

4 年齢別人口

年齢別に人口をみると、前年に比べ、年少人口（15歳未満）は104,898人（同13.1%）で1,683人、生産年齢人口（15歳～64歳）は478,145人（同59.6%）で2,197人それぞれ減少しているのに対し、老年人口（65歳以上）は219,813人（構成比27.4%）で1,626人増加している。

行政区別に構成比をみると、年少人口が最も高いのは浜北区（15.3%）で、最も低いのは天竜区（7.6%）である。生産年齢人口が最も高いのは中区（61.3%）で、最も低いのは天竜区（47.9%）である。老年人口が最も高いのは天竜区（44.5%）で、最も低いのは東区（25.5%）である。

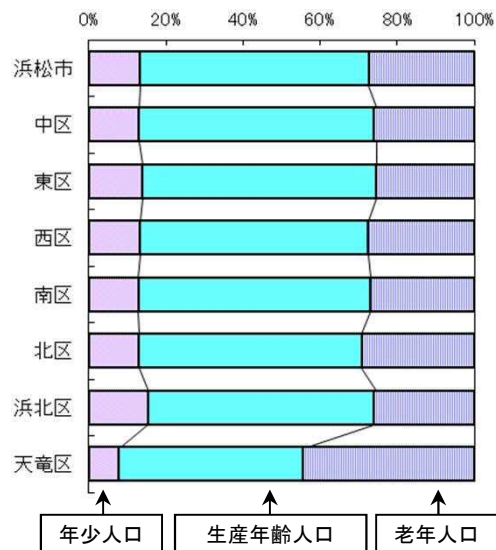
表4 年齢3区分別人口

区 分	平成30年	令和元年							
	浜松市	浜松市	中 区	東 区	西 区	南 区	北 区	浜北区	天竜区
年 少 人 口 (15 歳 未 満)	106,581	104,898	29,551	18,049	14,712	13,108	12,130	15,206	2,142
構 成 比 (%)	13.2	13.1	12.5	13.8	13.3	12.8	13.0	15.3	7.6
生 産 年 齢 人 口 (15 歳 ~ 64 歳)	480,342	478,145	145,629	79,079	65,339	61,967	54,032	58,530	13,569
構 成 比 (%)	59.7	59.6	61.3	60.6	59.1	60.3	57.7	58.7	47.9
老 年 人 口 (65 歳 以 上)	218,187	219,813	62,264	33,318	30,513	27,688	27,454	25,964	12,612
構 成 比 (%)	27.1	27.4	26.2	25.5	27.6	26.9	29.3	26.0	44.5

年齢構成指数をみると、年少人口指数は21.9(前年22.2)で前年に比べ減少している。老年人口指数は46.0(同45.4)、従属人口指数は67.9(同67.6)、老年化指数は209.5(同204.7)で、前年に比べ上昇している。老年化指数の上昇が著しく、高齢化が進んでいることが分かる。

行政区別にみると、老年人口指数・従属人口指数において天竜区が突出して高く、生産年齢人口が少ないことを示している。老年化指数は全ての区で150を超えており、老年人口が年少人口を上回っていることが分かる。

【図5 年齢3区分別人口(構成比)】



【人口の年齢構成の特徴を表す指数】

- 年少人口指数(生産年齢人口に占める年少人口の割合)

$$\frac{\text{年 少 人 口}}{\text{生 産 年 齢 人 口}} \times 100$$
- 老年人口指数(生産年齢人口に占める老年人口の割合)

$$\frac{\text{老 年 人 口}}{\text{生 産 年 齢 人 口}} \times 100$$
- 従属人口指数(生産年齢人口に占める年少人口と老年人口の和)

$$\frac{\text{年 少 人 口} + \text{老 年 人 口}}{\text{生 産 年 齢 人 口}} \times 100$$
- 老年化指数(年少人口に占める老年人口の割合)

$$\frac{\text{老 年 人 口}}{\text{年 少 人 口}} \times 100$$

表5 年齢構成指数

区 分	平成30年	令和元年							
	浜松市	浜松市	中 区	東 区	西 区	南 区	北 区	浜北区	天竜区
年 少 人 口 指 数	22.2	21.9	20.3	22.8	22.5	21.2	22.4	26.0	15.8
老 年 人 口 指 数	45.4	46.0	42.8	42.1	46.7	44.7	50.8	44.4	92.9
従 属 人 口 指 数	67.6	67.9	63.0	65.0	69.2	65.8	73.3	70.3	108.7
老 年 化 指 数	204.7	209.5	210.7	184.6	207.4	211.2	226.3	170.7	588.8

日本人住民の平均年齢は46.56歳で、前年の46.26歳より0.30歳上昇している。男女別にみると、男性は45.05歳(前年44.76歳)、女性は48.05歳(同47.75歳)で、ともに前年に比べ上昇している。外国人住民の平均年齢は33.94歳で、前年の33.96歳より0.02歳低下している。男女別にみると、男性は32.74歳(前年32.80歳)で低下しているが、女性は35.13歳(同35.09歳)で上昇している。

行政区別にみると、日本人住民の平均年齢は、前年と同様すべての区において上昇しており、最も上昇幅が大きかったのは西区の0.46歳で、最も上昇幅が小さかったのは中区と浜北区の0.25歳であった。外国人住民の平均年齢は、前年に比べ、中区と西区については上昇しているが、その他の区では低下している。

表6 平均年齢

【日本人住民】

区 別	平成30年			令和元年		
	男	女	合計	男	女	合計
浜 松 市	44.76	47.75	46.26	45.05	48.05	46.56
中 区	44.73	47.88	46.32	44.98	48.13	46.57
東 区	43.56	46.33	44.94	43.95	46.61	45.28
西 区	44.73	47.60	46.17	45.15	48.09	46.63
南 区	44.76	47.68	46.21	45.05	48.06	46.54
北 区	45.60	48.79	47.21	45.92	49.06	47.50
浜 北 区	43.71	46.06	44.89	43.91	46.36	45.14
天 竜 区	54.10	58.15	56.19	54.43	58.51	56.53

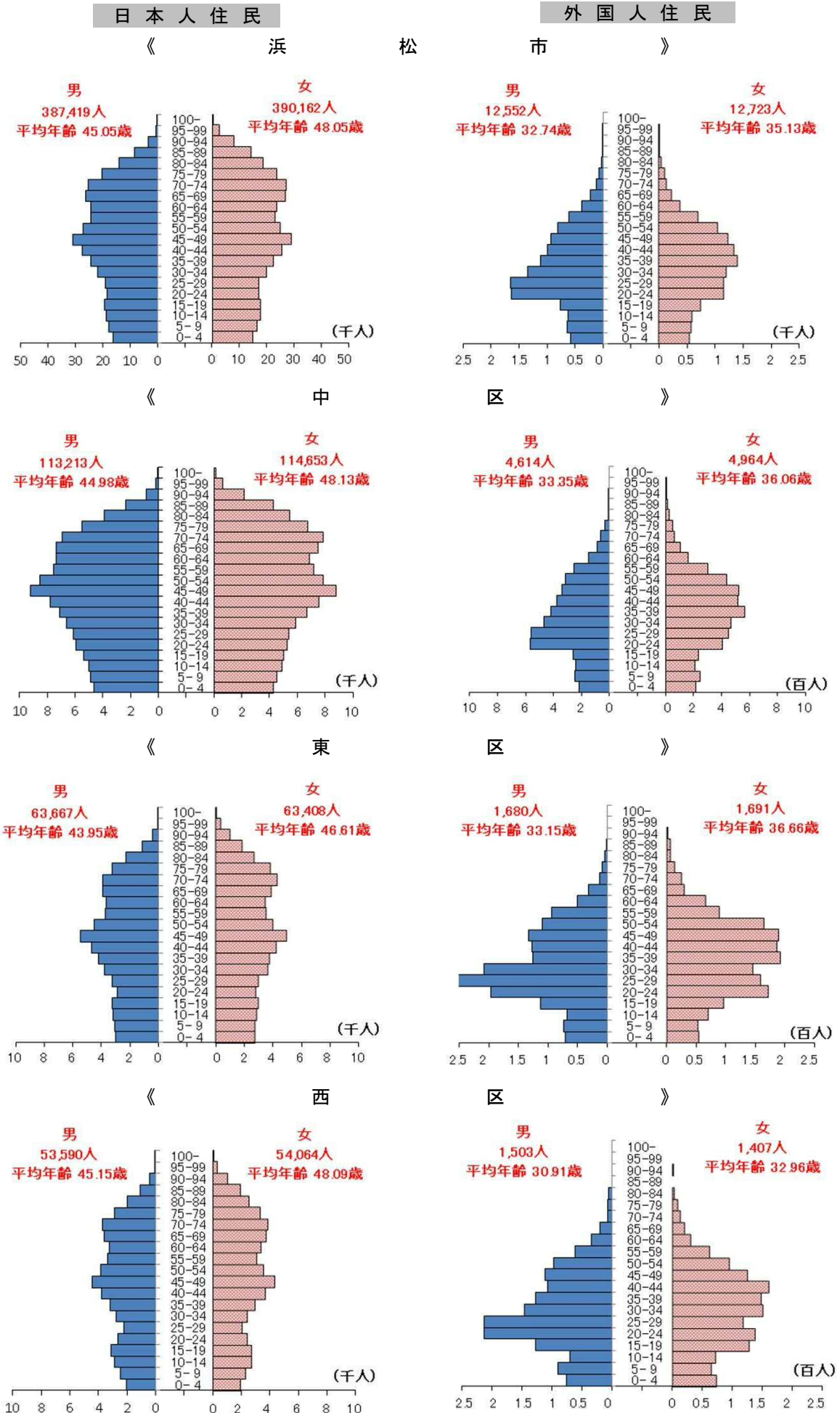
【外国人住民】

区 別	平成30年			令和元年		
	男	女	合計	男	女	合計
浜 松 市	32.80	35.09	33.96	32.74	35.13	33.94
中 区	33.15	35.65	34.45	33.35	36.06	34.75
東 区	33.64	36.16	34.95	33.15	36.66	34.91
西 区	30.53	33.10	31.78	30.91	32.96	31.90
南 区	32.75	34.87	33.80	32.58	34.56	33.54
北 区	32.02	34.30	33.14	31.62	33.54	32.59
浜 北 区	32.87	33.62	33.25	32.47	33.39	32.92
天 竜 区	40.21	39.43	39.75	37.95	38.65	38.31

人口ピラミッド(5歳階級)は、日本人住民において、40歳代(昭和45～54年生)と、65～74歳(昭和20～29年生)の人口が多いことを表している。外国人住民は、20歳代後半の人口が最も多い。

行政区別にみても概ねその傾向があるが、特徴的な区もある。南区と北区の日本人住民人口は、他区に比べ年齢階級による凹凸が少ない。天竜区の日本人住民においては、第二次ベビーブーム世代の凸が見られない。

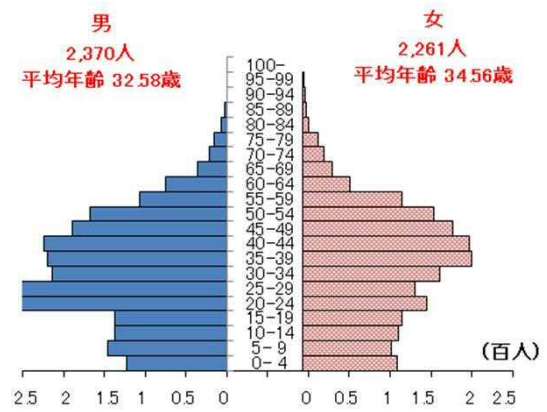
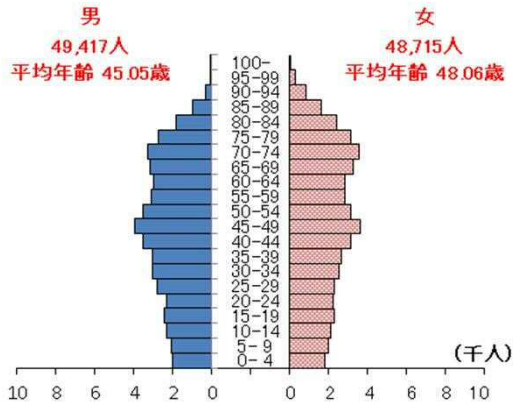
【図6 人口ピラミッド(5歳階級)】



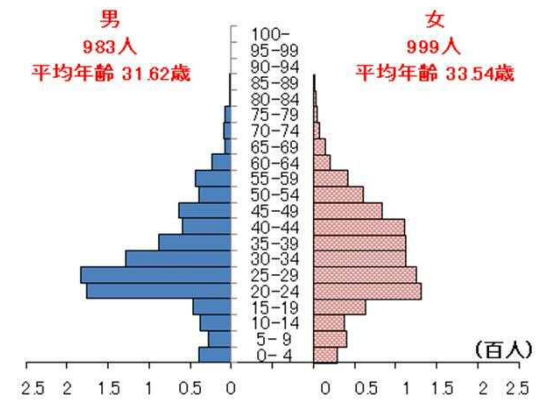
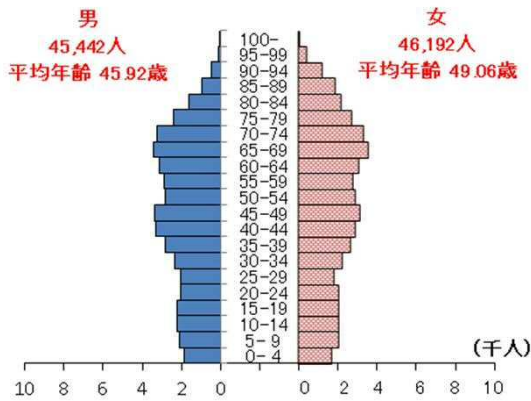
日本人住民

外国人住民

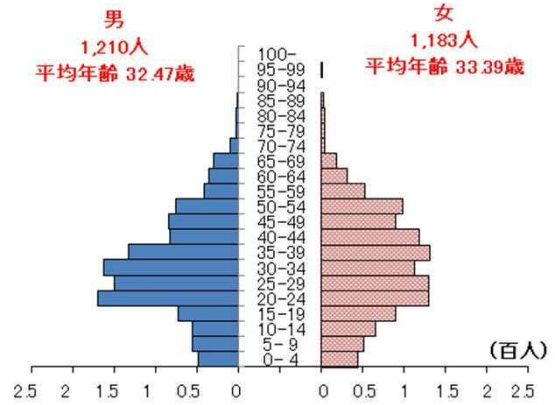
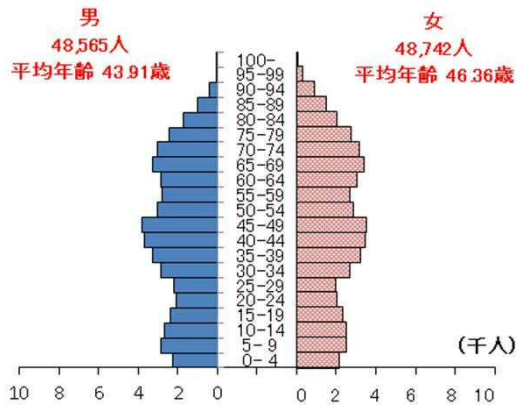
《 南区 》



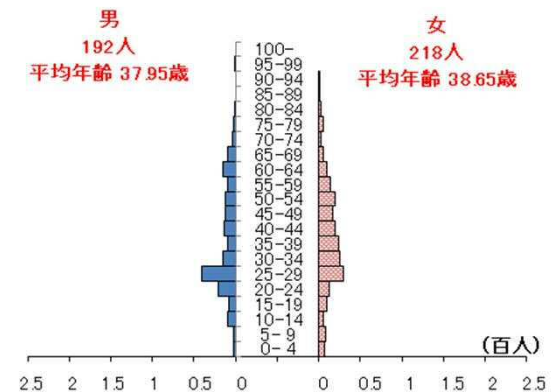
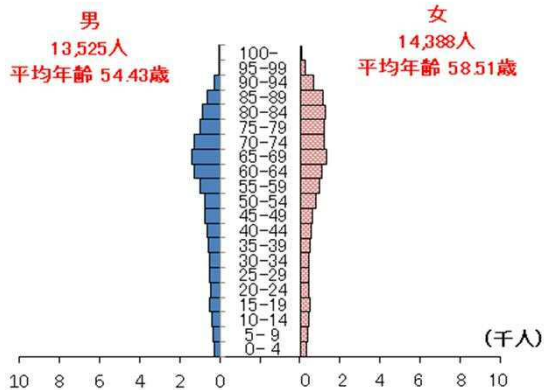
《 北区 》



《 浜北区 》



《 天竜区 》



5 人口動態(平成31年1月～令和元年12月)

(1) 自然動態

平成31年1月から令和元年12月までの自然動態をみると、出生数は5,791人、出生率(人口1,000人当たりの出生数)は7.21‰(パーミル)である。これに対し、死亡数は8,447人、死亡率(人口1,000人当りの死亡数)は10.52‰で、両者の差である自然増減数は2,656人減、自然増減率(人口1,000人当たりの自然増減数)は3.31‰減である。

前年と比較すると、出生数は453人、死亡数は185人とともに減少している。自然増減数は268人減で、11年連続の減少である。

行政区別にみると、出生数は中区、東区、南区の順に多く、死亡数は中区、西区、東区の順に多い。自然増減数は東区、南区の順に多く、中区と北区では大きく減少している。

出生率が最も高いのは東区、最も低いのは天竜区である。死亡率が最も高いのは天竜区、最も低いのは東区であり、自然増減率が最も高いのは東区、最も低いのは天竜区である。

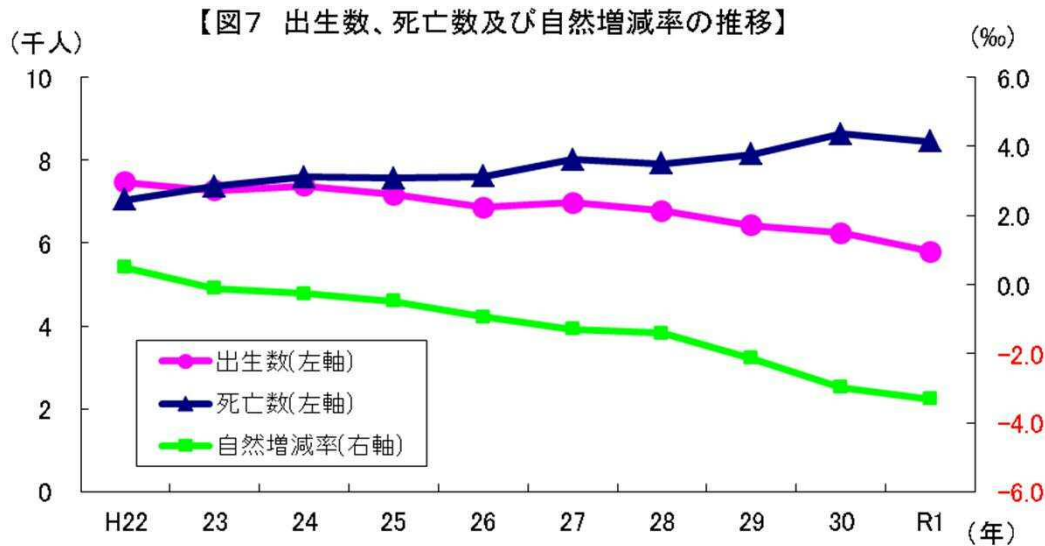


表7 自然動態

区 別	出 生			死 亡			自 然 増 減		
	総 数	出生率(%)	前年比(%)	総 数	死亡率(%)	前年比(%)	総 数	自然増減率(%)	前年比(%)
浜松市	5,791	7.21	△ 7.25	8,447	10.52	△ 2.14	△ 2,656	△ 3.31	△ 11.22
中 区	1,774	7.47	△ 3.80	2,479	10.44	1.60	△ 705	△ 2.97	△ 18.29
東 区	1,079	8.27	△ 9.56	1,172	8.98	△ 7.50	△ 93	△ 0.71	△ 25.68
西 区	708	6.40	△ 13.34	1,191	10.77	△ 0.67	△ 483	△ 4.37	△ 26.44
南 区	799	7.78	△ 6.11	990	9.63	△ 6.87	△ 191	△ 1.86	9.91
北 区	599	6.40	△ 7.28	1,138	12.16	△ 0.35	△ 539	△ 5.76	△ 8.67
浜北区	734	7.36	△ 6.38	928	9.31	△ 2.62	△ 194	△ 1.95	△ 14.79
天竜区	98	3.46	△ 10.09	549	19.38	△ 3.35	△ 451	△ 15.92	1.74
平成30年	6,244	7.76	△ 2.94	8,632	10.72	5.91	△ 2,388	△ 2.97	39.08

(2) 社会動態

平成31年1月から令和元年12月までの社会動態をみると、転入者数は23,640人、転入率(人口1,000人当たりの転入者数)は29.44%(パーミル)である。これに対し、転出者数は23,237人、転出率(人口1,000人当たりの転出者数)は28.94%で、両者の差である社会増減数は403人増加となり、社会増減率(人口1,000人当たりの社会増減数)は0.50%増である。

前年と比較すると、転入者数は23人、転出者数は271人とともに減少となった。社会増減数は248人増加となっている。

行政区別にみると、転入者数・転出者数ともに中区、東区の順に多い。社会増減数は中区、浜北区、東区の順に増加している。転入率・転出率ともに最も高いのは中区であるが、社会増減率は北区、中区、東区の順に高い値となっている。

自然動態と社会動態を比較すると、本年は転入者数が多く、社会増減数は403人増加したが、自然増減数は2,656人減少となり、引き続き人口は減少している。

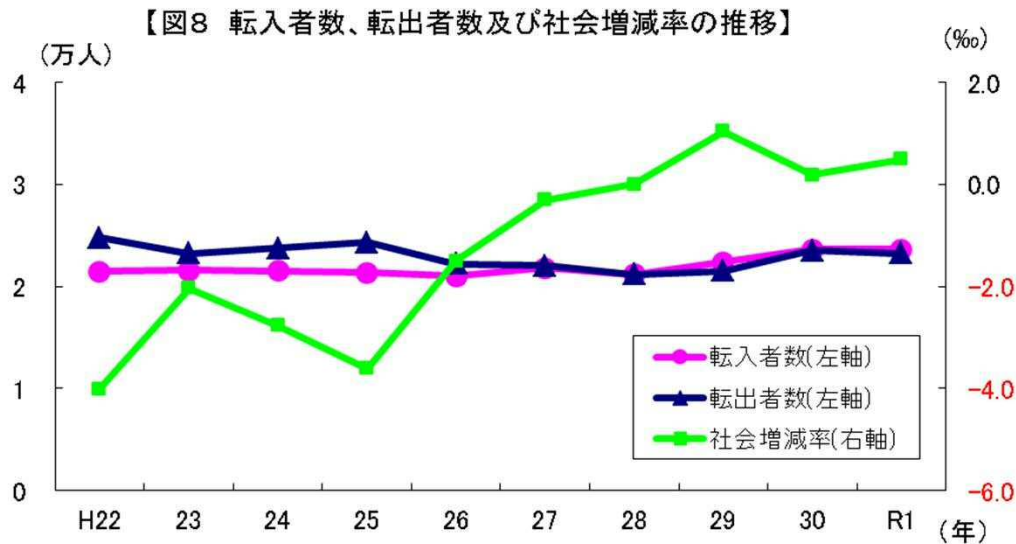


表8 社会動態(市外移動)

区 別	転 入			転 出			社 会 増 減		
	総 数	転入率(%)	前年比(%)	総 数	転出率(%)	前年比(%)	総 数	社会増減率(%)	△は減少率前年比(%)
浜松市	23,640	29.44	△ 0.10	23,237	28.94	△ 1.15	403	0.50	160.00
中 区	9,153	38.55	2.25	8,870	37.36	△ 3.35	283	1.19	225.78
東 区	3,545	27.18	8.38	3,424	26.25	2.12	121	0.93	247.56
西 区	2,927	26.47	△ 1.61	3,172	28.69	5.17	△ 245	△ 2.22	△ 497.56
南 区	3,086	30.03	△ 1.28	3,038	29.56	4.87	48	0.47	△ 79.04
北 区	2,481	26.50	△ 12.39	2,307	24.64	△ 14.37	174	1.86	26.09
浜北区	2,037	20.43	△ 4.01	1,969	19.75	2.23	68	0.68	△ 65.31
天竜区	411	14.51	6.75	457	16.14	2.70	△ 46	△ 1.62	23.33
平成30年	23,663	29.39	5.73	23,508	29.20	9.12	155	0.19	△ 81.48

6 人口移動状況(住民基本台帳・平成31年1月～令和元年12月)

平成31年1月から令和元年12月までの人口移動状況をみると、東海地方での出入りが最も多く、転入者は10,313人(構成比55.6%)、転出者は10,094人(同50.4%)である。以下、関東地方、近畿地方と続いている。

東海地方を県別にみると、転入者・転出者ともに最も多いのは静岡県で、東海地方における移動者の約6割を占めている。関東地方においては、転入者・転出者ともに東京都、神奈川県に多い。

大都市(東京都特別区部及び政令指定都市)別にみると、転入者、転出者ともに東京都特別区、名古屋市、静岡市の順に多い。

全国でみると1,477人の転出超過であるが、北陸甲信越、東海、中国、四国に対しては転入超過である。東海地方においては219人の転入超過であるが、愛知県に対しては278人の転出超過である。

表9 地方別転入・転出者数

地方	転入				転出				転入超過数 (△は転出超過数)		
	総数	構成比(%)	男	女	総数	構成比(%)	男	女	総数	男	女
総数	18,547	100.0	10,655	7,892	20,024	100.0	11,487	8,537	△ 1,477	△ 832	△ 645
北海道	244	1.3	157	87	284	1.4	202	82	△ 40	△ 45	5
東北	386	2.1	240	146	440	2.2	300	140	△ 54	△ 60	6
関東	4,147	22.4	2,462	1,685	5,587	27.9	3,048	2,539	△ 1,440	△ 586	△ 854
北陸甲信越	719	3.9	393	326	695	3.5	448	247	24	△ 55	79
東海	10,313	55.6	5,834	4,479	10,094	50.4	5,716	4,378	219	118	101
近畿	1,329	7.2	753	576	1,506	7.5	889	617	△ 177	△ 136	△ 41
中国	562	3.0	331	231	378	1.9	227	151	184	104	80
四国	147	0.8	89	58	140	0.7	93	47	7	△ 4	11
九州・沖縄	700	3.8	396	304	900	4.5	564	336	△ 200	△ 168	△ 32

注1) 住民基本台帳人口移動報告年報(基本集計)(総務省統計局)による。

注2) 東北地方:青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関東地方:茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

北陸甲信越地方:新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県

近畿地方:滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国地方:鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国地方:徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州・沖縄地方:福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

注3) 都道府県別・大都市別の転入・転出者数は、統計表6に掲載。

表10 東海地方県別転入・転出者数

県	転入				転出				転入超過数 (△は転出超過数)		
	総数	構成比(%)	男	女	総数	構成比(%)	男	女	総数	男	女
総数	10,313	100.0	5,834	4,479	10,094	100.0	5,716	4,378	219	118	101
静岡県	6,172	59.8	3,482	2,690	5,640	55.9	3,177	2,463	532	305	227
岐阜県	371	3.6	202	169	402	4.0	216	186	△ 31	△ 14	△ 17
愛知県	3,424	33.2	1,939	1,485	3,702	36.7	2,088	1,614	△ 278	△ 149	△ 129
三重県	346	3.4	211	135	350	3.5	235	115	△ 4	△ 24	20